

フェイク・ニュースが横行する現代、真贋を見極めることは実に難しくなっている。
同時に、真贋のはざまを見つめていくと、その境界がかなり曖昧であることに気が付かされる。
「ニセモノ」として断罪するのではなく、改めて俎上に上げて、アジアの先人たちがどのように
向き合っていたか、人文学の幾つかの視点から、その諸相を見てみたい。

開会挨拶 宮園 浩平 東京大学理事・副学長(研究担当)

報告 (報告順)

美術

板倉 聖哲

東京大学
東洋文化研究所教授

ニセモノ、
皇帝コレクション
となる



文学



大木 康

東京大学東洋文化研究所教授

ホンモノの人間と
ニセモノの人間

— 明代文人趣味と文学をめぐる議論

思想



金 文京

京都大学
人文科学研究所名誉教授

ニセモノの
経典をつくる

— 仏教・道教・マニ教の場合

— 思想・文学・美術から —

真贋のはざま

国立大学附置研究所・センター会議 第3部会(人文・社会科学系)シンポジウム

コメント 馬場 紀寿 (東京大学東洋文化研究所教授)
古代インドから真贋を考える

司会 梶屋 友子 (東京大学東洋文化研究所所長)

2019年 10/18 金

13:00~15:00(受付12:40~)

会場 東京大学 山上会館 2階 大会議室
〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1

参加
無料
定員・申込制



お申し込み先
U R L

<https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=T6978HAr10eaAgh1yvlMhAOy5n9MQLlBgClT6RcRwkdURU5DMTUMjY2NUQ5NDJCQFUMRkIBRzVUy4u>



お問合せ先

E-mail: shomu@ioc.u-tokyo.ac.jp

東京大学東洋文化研究所 総務チーム 総務担当
国立大学附置研究所・センター会議 第3部会
TEL. 03-5841-5869 FAX. 03-5841-5898